

現行「うつ病ガイドライン」は、2012年に第1版が発表され、その後2016年に第2版として、それまでの記載に新しい知見をアップデートし、「児童思春期のうつ病」、「うつ病患者の睡眠障害とその対応」の章を追加しました。そして2020年、高齢者のうつ病治療ガイドラインを加えました。

現在では、日本医療評価機構によるMinds診療ガイドライン作成マニュアル（2014年）に則ったガイドライン作成が望ましいとされています。しかし2016年の第2版はこのマニュアルには準拠せず、学会のうつ病におけるエキスパート達による執筆者議論によって作成されています。

先般、第3章の「中等症・重症」そして第4章「精神病性」の章につきまして、記載内容と文献の引用などについての疑義が発表されました。（脚注）

当学会としてはこの指摘を重く受け止め、学会外部メンバーを含めた検証ワーキンググループを構成し、表1の先生達によって下記プロセスで検証しました。その結果、指摘の通り引用が異なっており修正が必要な箇所と、我々の記載が妥当だと判断された箇所とが明らかになりました。

この検証結果を受けて現行のガイドラインの記載を添付のように加筆修正、変更したいと思います。

Mindsの作成マニュアルを採用していないとはいえ、このような引用の違いがありましたこと、当学会としてお詫びして修正するとともに、ご指摘いただいた先生方に感謝します。なお現在、2024年7月大阪で開かれます第21回大会におきまして、Minds基準に則ったガイドライン大改定草稿を発表すべく、執筆を進めております。

ご参照いただければ幸いです。

検証過程（プロセス）は以下の通りとなります。

1. 第3章、第4章について、大森氏らの指摘の有無にかかわらず、すべての内容をペアで検証
2. ペアによる検証で問題がありそうな箇所をWG全体で検討（全体会議は4回開催）
3. WG全体会議で問題があると判断した箇所は、そこで修正案を作成
4. すべての修正案を反映させた「改訂（一部修正）版」を作成
5. 「改訂（一部修正）版」を再度WG全体でチェック
6. 検証作業の方法、過程について問題がないかをアドバイザーがご確認

日本うつ病学会  
理事長 渡邊 衡一郎

(脚注)

2023年6月22日、「第119回日本精神神経学会学術総会(開催地:横浜)」の専攻医・初期研修医・学部学生演題(口演)若手チャレンジ口演(3)において、西若奈氏2)、幅田加以瑛氏1)、石橋知明氏1)、大森一郎氏1)、小坂浩隆氏1)による「うつ病治療ガイドライン第3章「中等症・重症うつ病」の批判的吟味」が発表され、第3章「中等症・重症」の文献の引用などについての疑義が発表された。

同年7月21日-22日、「第20回日本うつ病学会総会(開催地:仙台)」のポスター発表において、村島萌子氏1)、西若菜氏2)、幅田加以瑛氏1)、石橋知明氏1)、大森一郎氏1)らによる「うつ病治療ガイドライン第2版第4章「精神病性うつ病」の批判的吟味」が発表され、第4章「精神病性」の文献の引用などについての疑義が発表された。

1) 福井大学医学部精神医学 2) 福井県立病院